

第11回・銀座書斎入居ビル・清掃活動リポート

2019年3月9日(土) 実施

2019年3月16日(土) 提出

英語道弟子課程弟子 H.K.

第11回・銀座書齋入居ビル・清掃活動

2019年3月9日(土)は、生井利率先生より、清掃用の時間を
見取していただき、第11回・銀座書齋入居ビルの清掃を担当させて
頂きました。

11回目を迎えた本レポートは、これまでの清掃活動を振り返り、
学ばせていただいたことを中心にまとめました。

ちょうど下書きを書いている最中に、生井利率先生の公式サイトに
「銀座書齋 イッセー・『無言の努力は『高貴な努力』』」が掲載され、
勉強のみならず清掃活動にも適用する、と思い、メッセージを
読み、思うことあり、今回のレポート作成に至りました。

— 清掃は存在を消して行うもの —

第11回の清掃活動の直前に、先生から直に頂戴したご指導です。
今回は「仏そりと、静かに、存在を消して、誰にも気づかれないように
清掃しよう」と決めて臨みました。

下書きは、書かなければ伝わらない、という思いで、工夫した・注力した点を
伝える趣旨で書いておりましたが、同イッセーを通じて生井先生からの
メッセージをいただき、言葉や文字にしなくても、清掃した“跡”を
見れば、一目瞭然たらたと気が付きました。

ここから下に、学ばせていただいたことを、自分自身の課題として言い聞かせる
つもりで、まとめていきます。

< 清掃して 気づいたこと >

1. 自分のことよりも他人(ひと)の事。

自分のことは完全にどうでもよくなっていた。

清掃していたら「我」を忘れた。無意識で「我」を忘れて
無意識にのめり込んでいた。

そのことだけに集中していた。

自分以外の「ほかの人々に気持ちよく過ごしてもらいたいだけだった」。

2. その一方、夢中になり「我」を忘れるが、同時に、
「自分のことしか見えなくなっていた」。

「我」を忘れるのに「我しか見えない」ので矛盾しますが、どちらを
当てはまるのです。

無意識に清掃の中に入っていて、人から喜ばれたいというような欲、計算、邪念が無くなり、そのようなことは一つも気にならず、湧いてもきません。

ですが、一方で、夢中になっているために「自分が振り」「自分の後ろ姿」が見えなくなっていました。

私においては、「清掃中の音」です。

「ガキャン!」「ゴシゴシ」「シュッシュッ」「バタン!」「サッサッ」「カタン」...音が出ている、イコール、「私、今、清掃しています!」と喋りながら、大騒ぎしながら、またはメガホンで拡声しながら行っているようでした...。自分ではそのつもりがなかったもので、それこそ「自分が見えていない」。銀座書齋にいらした先生には丸分かりでした。

デリカシーについて、10年前からご教授、ご指導をいただき続けており、先日具体的な事前で「デリカシーに対する考え方と振舞い」についてお話を頂戴したばかりです。

また、客観的にとらえた時の「周囲環境・人」と「自分の存在」の関係については、無視して済む話ではないと思いました。

3. 清掃活動も Transubstantiation に直結している。

階段の構造を隅々まで知る事ができたのは、清掃活動のおかげです。

隅々まで何とかきれいにしたい、どのようにすればきれいになるのか、と真剣に考えるようになったのは、階段の仕組み、素材、性質...と、知れば知るほど、階段の奥深さに触れることになったから。階段を知り、建物の歴史に触れ、建物自体に触れ、建物を考え、なぜ銀座書齋が天辺におかれているのかを考えることになりました。それらは頭で考えようとしても命からなかつたと思います。体を通して感じ考えたのだと思います。

そして、構造を知り、工夫を凝らし、新たなアイデアを受け取ったり、湧いてきたりして、「より良い」を追求しています。

このことは勉強も同じ。そして 生井利率先生を知ることと同じ。

4. 自分の「粗」「粗いところ」に気がいた。

窓を開け忘れた、閉め忘れた、掃除したれた箇所があった、
お手紙を元の位置に戻せない。"～し放し"
ということがあるたび、落ち度に気付きました。
自分の「雑さ」「雑なところ」をいせでも見れますし、
認めざるを得ないです。

5. 清掃しているのではない、
清掃させていたただいてるのだ、ということに気がいた。

黙って行う、というのは、そのようなことだと思いました。

始めの頃、清掃しているのを見られたくなく、他の階の方の
足音が聞こえると、手を止め、立端によけ、何をしているのか
気づかれないうちに、とタオルやほうきを隠していました。

そのうち、自分の行いは間違っている？ 悪いことをしているわけ
ではないのに、何故私は体の後ろに隠そうとしている？
正しいことをしているのだから、堂々と掃除すればいいじゃ
ないか！ と思い、それからは隠すことなく行っていたのですが、
その時に間違った方へ行ってしまったなと思っ出しています。

いつの間にか「私は清掃している」と思っていたと
思います。

私は清掃しているのではないのです。

清掃する機会をいたただいて、清掃させていたただいています。

6. 「怒り」を感じる経験をした。

一生懸命に清掃し、ピカピカになった所が不意に汚され
放置されてしまったことへの「怒り」がありました。

私は鈍感なので、怒りの感情が湧かずにいました。
私の心の中のものが動くよう、先生はわざと熱く、私に
お話ししてくださっていたのだ、と気が付きました。

「自分の中の熱いもの」を燃やすことの重要性。

「燃える熱い思い」は、行動を起す原動力となり、不可能だと
思っていたことが可能になる ということを 体感させていたのだと
気がきました。

特に 怒りという感情は、熱情に置き換えると 大きなパワーになる
ことを知りました。

始めの頃は、念った事の無い方の いらっしゃる 階を 清掃している時、
「知らないのに 何故掃除しているのだろう」と 頭をよぎりましたが、
きれいにやる 喜びを知り、その後 色々な問題が起きて、
それを 解決するために 動き、すると その内、階段を 愛おしく
思い、もちろん その間には、生井利幸先生からの 様々なご指導を
いただいて、ほかの弟子の 皆さんの 熱い思いを感じて 勉強
させていただいた わけですが、今では どの階にも 愛着があつて、
と、自分の 中の 変化が 面白いです。

M.U.さんが 飾ってくださった お花は、清掃をさせていただいている 私と
比較にならないほどの 清らかな姿で、静かに 咲いていました。
騒がず、喋らず、じと、ひそり。 優雅な 雰囲気 を 放っていました。
お花が 無言の高貴 そのものでした。 目指すべき姿を 教えて
くれました。 無言で 伝えてくださっていました。 M.U.さんの
華やかな ご提案を、ありがたく 鑑賞 させていただきました。

< 最後に、当日の 具体的な 活動を 明記 します >

見取りしていただきました 清掃時間は、9:05 からの 2時間。
前日に 段取りを 考えていた 時点で、どのように 粗人でも 収まり
ませんでした。 業者の 出入りが あった 翌日 でした。 6階 ~ 5階、
おふびトルは しっかりと 清掃 したから です。 それらに けでも
1時間は かかりましたので、 総々 お手紙 などには 触れない
ことに 致しました。

あと1時間あれば、とか、もっと時間が許せば もっと 掃除したい、
という 「あと」「もっと」は ある種の 欲だと 思いました。
時間は 永遠には 無く、 限りあるものだから、 限られた中で、
すべてを 行える よう 追求 すること。 これは 私にとっての 清掃の
課題 であり、 勉強 すること、 この 生を 使う ことにも 直結 する ...
と 今 感じて います。

階段は、6階から5階は しっかり清掃したい、そして、1階入口は
すべての人が最初に通るから重要、そして2階から4階は、
それぞれの階に 足を運ぶ人にとって重要。

結局、階段は そのすべてが 清掃すべき、清潔を保つべき、
重要な階段なのだ、 と思いました。

この日、5階から6階の 絵やお手紙を含めた置かれている物に
触れずに 清掃を終えました。 それでも 時間は 11:30 になってしまい、
又、それらに触れなかったことは、 後で 大変気持ちの悪いもの
となり、 後味が 非常に悪いものとなりました...

1つ、良いことが ありましたので、 改めて 本レポートにも ご報告させ
たいと思います。

先日 お話した 下の階の 会社の方へ、 御礼を お伝えしたいと思って
いたところ、 話をしたいと思っている人に 会えるものだと 思いました。
(ほかの人には 会わない日でした)

ちょうど、1階入口に出たら、「あの方だ！」と わかりましたので
「先日は すぐに 清掃してくださり、ありがとうございます。」とお伝え
したので、 前日に 業者の 出入りが あって また 汚れてしまったので
今日にでも 清掃する予定だったと お話されました。

汚したら 清掃するのは 当たり前だけれども、「清潔を保つことの
大切さ」が 浸透していると 分かり、うれしかったです。

正しいことは 伝わる。

真実は 伝わる。

行いが 他者に 伝わっていることを 直接 経験したのは 幸運です。

その逆もある と思いますので、 双方を 考えながら、

自分自身においては、 日々、正しい行いをし、 正しく 生きなければ
ならない。 正しく 生きなければ ならない 権利を いただいている
と思いました。

清掃活動から 計り知れない 学習の機会を 見武身して くださった
生井先生、 実体験からの 学びを 共有して くださり、 切磋琢磨させて
いただける 弟子の 皆さんが いらっしゃることは、 本当に 幸運です。

偉大な 学習機会を 見武身して いただき、 ありがとうございます。